



の み が わ

2008/10/23 日発行 (通算第 51 号)

連絡先 〒146-0085 大田区久が原 4-19-24

発行 大坪庄吾方 呑川の会

呑川の会 e-mail nomigawa@r00.itscom.net

呑川の会 HP <http://home.m00.itscom.net/nomigawa/>

高橋会員 HP <http://homepage2.nifty.com/aoiyume/>



呑川の会の掲示板できる

道々橋脇 醍醐倉庫フェンス



呑川の会の掲示板

今年度の年間計画の中に「呑川の会の掲示板を造りたい」という項目がありました。8月に入ってから適当な場所として道々橋脇左岸にある醍醐倉庫前が適当な場所の候補にあがっていました。

幸い、醍醐倉庫の持ち主醍醐康之さんが大坪の小学校時代の同級生であることから電話お願いしてみました。

9月に入ってからなんとかできそうだというお返事をいただいたので工藤さんと大坪が醍醐さんを訪ね、正式にお願いしました。9月8日すぎ、設置してよいという回答がありました。

案内板は工藤会員の手作りのものです。大きさはA3版4枚が貼れる大きさです。工藤さんがラミネートした呑川の会ニュース50号を貼り、完成したものが上の写真です。道々橋は交通量の多い橋で、その左岸側に醍醐倉庫があり、橋際には「トランクルームダイゴ」の大きな表示看板があります。その下部には「ボイ捨て禁止 呑川を美しく」と大きく書かれています。そ



醍醐倉庫の表示と掲示板

の右側に植え込みがあって道路側にはうす緑のフェンスが続いています。掲示板はフェンスの上面のわくに取り付け風雨で飛ばされないように固定しました。

呑川を散歩する人の目に着きやすい位置ですが、文字が小さいため近づかなければ読めないのが難点です。

読みやすいニュース作りが課題です。上の方に呑川の会の入会案内も貼ってあります。反応があることを期待したいです。なお、同じ掲示板は池上第二小学校のフェンスにも取り付けられました。

(大坪庄吾記)

見沼代用水東縁ウォーキング 折戸 清

9月27日(土)のウォーキングは、さわやかな秋空に恵まれ10名の参加者があった。コースは下記の通りで、約10キロを歩いた。

JR東浦和駅 見沼代用水西縁 見沼通船堀西縁 鈴木家住宅
芝川八丁橋 水神社 見沼通船堀東縁 見沼代用水東縁 妙蔵寺 (少し下流の公園で昼食) 芝川地藏橋立寄 川口グリーンセンター横 文化放送送信所横 辰井水位調整ゲート 毛長川との交差点 見沼代親水公園 モノレール見沼代親水公園駅



午前10時に白石会員の案内で東浦和駅を出発し、少し歩くと見沼代用水西縁に出る。ここから緑が濃い通船堀西縁に沿って、芝川に向かってのんびり歩く。左手北方には見沼田畑が広がっている。途中、二の関跡と一の関を通過する。やがて芝川に出て右岸にある鈴木家住宅に立ち寄り、そこに居た案内の人か

ら資料を貰い、住宅裏の展示室で見沼代用水や通船堀の説明を受ける。次いで芝川にかかる八丁橋を渡り、水神社に立ち寄ったあと、今度は通船堀東縁を歩く。東縁の一の関と二の関は復元されている。やがて見沼代用水東縁に出る。正面には富士塚が望まれた。

ここからは見沼代用水東縁を下流に向かって歩く。稲の収穫時期に当たるためか用水の水量は少ない。かつての見沼田圃は現在では里芋などの畑になっている。用水沿いの道は車の通らないヘルシーロードになっており、桜並木や左手の崖縁に生えている大木の緑の木陰が多く気持ちよく歩けた。東京外環自動車道をくぐり緑の木立が多い妙蔵寺へ立ち寄り、ここから少し下流にある用水沿いの小公園で昼食をとる。

川口グリーンセンター横を通る手前の芝川が代用水と接近するところで、芝川の花蔵橋に立ち寄る。上流に比べ大分川巾が広く水量も豊かになっている。この川の右岸にはサイクリングロードがあり、自転車は橋の下をくぐらず道路の上をまたぐ橋を走っているのが車嫌いの私には好感が持てた。

また代用水に戻り、しばらく歩くと左岸に文化放送送信所の高い塔が見える。この少し先には堅固な造りの辰井水位調整ゲートがある。これほど大規模ではないが、このようなゲートは他にも数件見られた。また用水の水は淀んで少し濁っているが悪臭は全然しない。釣り人も見掛けたので魚もいるらしい。用水は高台の縁を屈曲して流れているので、屈曲した所の川底には泥が堆積している。用水底には捨てられたゴミが泥にまみれて沈んでいる所もあったが、少しばかりの水草が水にたなびいている所もあった。

首都高速川口線をくぐると一般道路を歩くようになる。やがて毛長川と交差する地点に到達する。この地点には川の水を浄化する施設があり、ここで浄化された水が、ここから始まっている見沼代親水公園をせせらぎとなって流れるようになる。呑川上流のせせらぎ緑道のような感じであるが、もっとよく整備され散策する人達も多い。上流ではあまり見掛けなかった鯉もたくさん



泳いでいる。やがてモノレールの終点駅に近づいたが、その先にもこの親水公園は続いている。すでに午後3時半近くになっていたが、ここで今春新しく開通した都営モノレールに乗車した。高い所を走るのでも見晴らしが良く、筑波山も望めた。

また車窓から舎人公園が見えたが、とても広大なのに感心した。歩く距離が少し長かったが、さわやかな秋空のもと見沼代用水の歴史を感じながら楽しくウォーキングができた。用水縁は意外に緑が多く、用水ベリーのあちこちで満開の赤い彼岸花を見ることができたのは好運であった。また桜並木が多かったのも、春に花が咲く頃ふたたび訪れたいと思った。

(写真：白石 瑠朗)

立会川での水質改善対策について

立会川でも呑川と同様に京急立会川駅周辺商店街を中心に、下水越流水による悪臭、白濁等に悩まされてきており、その対策として品川区では高濃度酸素溶解水を立会川に供給する事業を開始しました。NPO 法人福祉コミュニティ大田の岡禮子さんが品川区下水道河川課と連絡をとり、その事業の見学会が7月25日に実施されましたので、概要をお知らせします。

事業の概要 悪臭、白濁は下水越流により川の下層部分の水質が酸欠状態になるため、発生するので、この事業は川の下層部分に高濃度の酸素を溶解させた水を静かに放流して下層部分の溶存酸素量を高めようとするもの。

すなわち河口近くの海水も混ざった水に酸素発生装置から発生させた濃度90%以上の酸素を気体溶解装置を通し溶解させ、立会川と旧東海道がクロスする弁天橋付近に設けた吐出口から静かに放流している。

品川区では昨年度、現地で試験し、成功したとして、今年度本格的に設備を設け、実施に踏み切ったものです。費用は5年契約で1億円。

この高濃度酸素の供給による水質改善は元々ダム湖底の水質改善策として実施されてきたもので、河川についてはこれまで名古屋堀川で実施されているとか。

また品川区では現在、去年の試験設備を目黒川と目黒線が交差する亀の甲橋上に設置して、来年3月まで試験をしています。

(福井 甫記) 写真は 施設全景



改修工事の呑川を生き抜く生き物たち

(高橋 光夫 記)

カワセミも ゴイサギも ギンヤンマも

6月に「八幡橋」下流側の耐震補強工事（その5工事）が始まりました。
この場所は自然河床の残る場所で、工事の影響が生物にどう出るか心配で、観察を続けました。



まず気になるのは5月頃からちよくちよく見られるようになったカワセミです。工事区間は自然河床で、一定の水深もあり小さな魚たちも沢山集まります。

それを証拠づけるため、単にカワセミがいたと言うだけでなく、魚を捕獲する瞬間を撮影したいと6月頃からねらい始めました。カワセミは道々橋から根方橋付近でよく見られますが、

これはダイビングして呑川に突っ込んだものの魚を捕まえられず、失敗した瞬間です。

7月の初めに工事現場で痛ましい人身事故が起きて、救命ロープが張られました。

とまるどころが少ない呑川で、カワセミにとって大助かりだったようで、このロープは盛んに利用していました。たぶん魚が捕まえられる確率はグンと上がったと思われましたが、実際にその瞬間の写真は捕まえられませんでした。



しかしチャンスはやって来ました。



呑川にダイビングして小魚を捕獲したカワセミは、「仲之橋」付近の護岸段差にチョンととまったのです。

どうもこの場所で食事をするようです。

ここで魚のウロコが喉につかえないように、くわえ直す作業をするはずです。

ところがこのカワセミはしっかり小魚をくわえていましたが、そのままですぐ食べる様子はありません。そして何か落ち着かない様子です。

次の瞬間、カワセミは小魚をくわえたまま飛びました。

その先を追うと、なんともう一羽のカワセミがいたのです。

このカワセミは自分で食べるのではなく、彼女に魚をプレゼントするたためだったようです。

とてもステキな瞬間に出会えました。

こうして、自然河床や静水状態など呑川に魚がたくさんいる環境があって、そこに「清流の宝石」と言われるカワセミが見られることはとてもうれしいことであり、私たちの誇りでもあります。



呑川の改修工事は進み、河床の地盤改良工事が始まった10月始め、「仲之橋」付近でなんとゴイサギに出会いました。ゴイサギに会ったのは初めてでした。

呑川にはまだまだ私たちが気が付いていないたくさんの生き物たちがいるのでしょうか。そしてこの夏、呑川の生き物たちにとって「静水域」がいかに大切かという場面に出会いました。

最近いわゆるゲリラ豪雨が多く発生し、この間の増水を少なくするため、新宿からの高度処理水がたびたび止まりました。



呑川の上流、工大橋～石川橋付近は処理水が止まると、護岸から流れ込むわずかな湧水だけになり、速い流れは姿を消し、静かな静水状態になります。

いつも両岸の水の無い場所にいるハクセキレイも、この時は水に流される心配なく、水の中に入って食事や遊びをします。

とてもめずらしい光景です。

そして静水状態になると、いざ上流には見ることの出来ないギンヤンマがどこからと無く姿を現すのです。しかもギンヤンマはペアになって水際で産卵まで始めたのです。流れがないので産卵しても大丈夫と思ったのでしょうか。



こんな風に、川に静水域があるということは生き物たちにとって特別の意味を持つようです。次期改修工事にあたって、なんとかしてこの「静水域」を実現できればと切に思います。

呑川沿岸（工大橋～河口）の樹木 可児 昭雄

日本の季節の楽しみは「春の花見」に対して、「秋のもみじ狩り」が代表的な行事になっている。呑川沿いも木々の葉が一枚一枚散り始め、紅葉の季節へ向かう時期になり、ところどころ色づき始めた。だんだんと昼・夜の寒暖の差が大きくなるにつれ「紅」・「黄」と色づきも鮮やかになってくる。呑川沿いの、このような樹木を列挙する。



比較的大きい樹木

- | | |
|---------------------------|------------------|
| 黄葉：カツラ（桂） | 境橋・下流左岸 |
| 〃：トウカエデ（楓） | 一本橋側「石川公園」 |
| 〃：ユリノキ（木蓮科） | 仲之橋下流左岸「仲流児童公園」 |
| 〃：イチョウ（銀杏） | 双流橋下流右岸「大田区保護樹木」 |
| | 北糞谷橋下流左岸「八幡神社」 |
| 〃：メタセコイヤ | 旭橋下流右岸「東糞谷第二公園」 |
| 〃：その他 ナラ（檜）・イタヤカエデ・ケヤキ（欒） | |
| 紅葉：イロハモミジ | 島畑橋左岸「鈴木家・保護樹林」 |
| 〃：ヤマハゼ（山櫨） | 養源寺橋下流左岸 |
| 〃：その他 ハナミズキ・ドウダンツツジ・ニシキギ | |
| 紅黄葉：サクラ（桜） | 呑川沿いに 340 本 |
| 〃：その他 カキ（柿） | |

以上、これらの樹木を探しながら歩くのも楽しみである。（写真：白石）